

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2003年 4月17日
Date of Application:

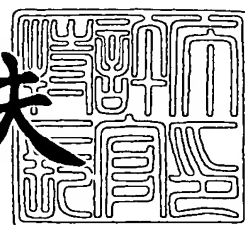
出願番号 特願2003-112484
Application Number:
[ST. 10/C]: [JP2003-112484]

出願人 株式会社パイオラックス
Applicant(s):

2004年 3月16日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



出証番号 出証特2004-3021034

【書類名】 特許願

【整理番号】 SP150417A

【提出日】 平成15年 4月17日

【あて先】 特許庁長官 太田 信一郎 殿

【国際特許分類】 E05C 21/00

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町 5 1 番地 株式会社パ
イオラックス内

【氏名】 山田 悟志

【特許出願人】

【識別番号】 000124096

【氏名又は名称】 株式会社パイオラックス

【代理人】

【識別番号】 100077735

【弁理士】

【氏名又は名称】 市橋 俊一郎

【電話番号】 03(3431)5741

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 004570

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要



【書類名】 明細書

【発明の名称】 収納体のサイドロック装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 支持体に収納体を開閉可能に取り付け、収納体側に左右一対のラッチを移動可能に保持すると共に、該左右の各ラッチを付勢ばね手段のばね圧で支持体側に形成されたロック孔方向に付勢して、操作ハンドルの操作で、上記左右の各ラッチの先端部を支持体側のロック孔から付勢ばね手段に抗して後退させる収納体のサイドロック装置において、上記左右一対のラッチを収納体側に回転可能に軸支されたリンクレバーを介して連動させる一方、操作ハンドルにラッチと当接する作動部を設けて、少なくとも、一方のラッチに当該操作ハンドルの作動部と当接する当接面を二つ以上設けたことを特徴とする収納体のサイドロック装置。

【請求項 2】 収納体は一方のラッチを移動可能に保持する保持部材を備え、該保持部材は収納体に対して着脱可能であると共に、操作ハンドルを揺動可能或いは押圧可能に支持することを特徴とする請求項 1 記載の収納体のサイドロック装置。

【請求項 3】 ラッチは突起を有する弾性片を備え、リンクレバーは該突起と嵌合する凹部を備え、リンクレバーの肉厚がラッチの肉厚よりも薄いことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 2 のいずれかに記載の収納体のサイドロック装置。

【請求項 4】 左右一対のラッチは、各自の後端側に設けられる軸部と、相手側の軸部を挿通する孔部とを有し、該各孔部は制動手段を有すると共に、一方の軸部に付勢ばね手段を装着したことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のいずれかに記載の収納体のサイドロック装置。

【請求項 5】 ラッチは保持部材を仮止めする弾性爪を有することを特徴とする請求項 2 乃至請求項 4 のいずれかに記載の収納体のサイドロック装置。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、例えば、自動車のインストルメントパネル側に開閉可能に取り付け

られるグローブボックスの如き、収納体のサイドロック装置の改良に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来のこの種サイドロック装置は、具体的には図示しないが、グローブボックス本体の中央に固定されるハウジング内に左右一对のリングレバーを回転可能に軸支して、該左右の各リンクレバーの上端部側にインストルメントパネルに形成されたロック孔を出入する一对のラッチを設けると共に、左右の各リンクレバーの下端部間に上記一对のラッチを常時ロック孔内に係入する方向に付勢する引張コイルばねを装着する構成となっている（例えば、特許文献1参照）。

【0003】

そして、グローブボックス本体の閉塞状態にあつては、左右の各リンクレバーの上端部に設けられているラッチの先端部がインストルメントパネル側の対応する左右のロック孔に係入して、グローブボックスをその閉塞位置にロックすることとなるが、このロック状態を解除してグローブボックスを開放する場合には、操作ハンドルの揺動操作で、左右一对のリンクレバーの中間部に対向して設けられている各突出腕を引張コイルばねの付勢ばね圧に抗して押し下げると、左右の各リンクレバーが付勢方向とは逆方向に回転して、ラッチの先端部をロック孔から後退させるので、これにより、グローブボックスを開放方向に移動させることが可能となる。

【0004】

【特許文献1】

特開平4-60079号公報

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

然し乍ら、従来のサイドロック装置にあつては、操作ハンドルをハウジング側に立設された軸受片に揺動可能に軸支している関係で、交通法規が異なる国で使用される右ハンドル仕様車と左ハンドル仕様車とでは、グローブボックスの配置位置が左右で異なるので、サイドロック装置の操作ハンドルをグローブボックス

の中央以外に配置しようとする、夫々の仕様車では、操作ハンドルを含めたサイドロック装置自体を変更しなければならなかった。又、国情や国民性或いは流行によって、操作ハンドルの操作方向や操作方式等の変更が余儀なくされる場合にも、その都度、サイドロック装置の設計変更が強いられることとなる。

【 0 0 0 6 】

【課題を解決するための手段】

本発明は、斯かる従来のサイドロック装置の課題を有効に解決するために開発されたもので、請求項 1 記載の発明は、支持体に収納体を開閉可能に取り付け、収納体側に左右一对のラッチを移動可能に保持すると共に、該左右の各ラッチを付勢ばね手段のばね圧で支持体側に形成されたロック孔方向に付勢して、操作ハンドルの操作で、上記左右の各ラッチの先端部を支持体側のロック孔から付勢ばね手段に抗して後退させる収納体のサイドロック装置において、上記左右一对のラッチを収納体側に回転可能に軸支されたリンクレバーを介して連動させる一方、操作ハンドルにラッチと当接する作動部を設けて、少なくとも、一方のラッチに当該操作ハンドルの作動部と当接する当接面を二つ以上設ける構成を採用した。

【 0 0 0 7 】

請求項 2 記載の発明は、請求項 1 を前提として、収納体は一方のラッチを移動可能に保持する保持部材を備え、該保持部材は収納体に対して着脱可能であると共に、操作ハンドルを揺動可能或いは押圧可能に支持する構成を採用した。

【 0 0 0 8 】

請求項 3 記載の発明は、請求項 1 乃至請求項 2 を前提として、ラッチは突起を有する弾性片を備え、リンクレバーは該突起と嵌合する凹部を備え、リンクレバーの肉厚がラッチの肉厚よりも薄い構成を採用した。

【 0 0 0 9 】

請求項 4 記載の発明は、請求項 1 乃至請求項 3 を前提として、左右一对のラッチは、各自の後端側に設けられる軸部と、相手側の軸部を挿通する孔部とを有し、該各孔部は制動手段を有すると共に、一方の軸部に付勢ばね手段を装着する構成を採用した。

【 0 0 1 0 】

請求項 5 記載の発明は、請求項 2 乃至請求項 4 を前提として、ラッチは保持部材を仮止めする弾性爪を有する構成を採用した。

【 0 0 1 1 】

依って、請求項 1 記載の発明にあつては、少なくとも、一方のラッチが操作ハンドルの作動部と当接する当接面を二つ以上有する関係で、操作ハンドルの位置をラッチに沿って自由に変更して、その作動部に対応する当接面に当接させながら、操作ハンドルを操作すれば、左右一対のラッチの先端部を支持体側のロック孔から付勢ばね手段に抗して後退させることが可能となるので、これにより、操作ハンドルのいくつもの操作方向と操作方式が提供できる。

【 0 0 1 2 】

請求項 2 記載の発明にあつては、操作ハンドルを揺動可能或いは押圧可能に支持する保持部材は、収納体に対して着脱可能となっている関係で、保持部材を収納体の任意の位置に固定することにより、これに応じて、操作ハンドルの設置位置を自由に変更できる。請求項 3 記載の発明にあつては、リンクレバーの肉厚がラッチの肉厚よりも薄くなっている関係で、ラッチ全体が薄くなり、サイドロック装置自体も薄型化できるので、収納に利用できる空間を従来品と比較して広くとれる。

【 0 0 1 3 】

請求項 4 記載の発明にあつては、各孔部に対応する軸部を互いに挿通する関係で、これ自体で枠組構造が完成して、捻じりモーメント等による変形に耐え得ると共に、各孔部が制動手段を有する関係で、ラッチのロック孔に対する出入時に、不快な打音が生じることを防止できる。請求項 5 記載の発明にあつては、ラッチに保持部材を仮止めする弾性爪を設けた関係で、ラッチと保持部材とを仮組み付け状態で納品できるので、作業効率が向上する。

【 0 0 1 4 】**【発明の実施の形態】**

以下、本発明を図示する好適な実施の形態に基づいて詳述すれば、該実施の形態に係るサイドロック装置も、自動車のインストルメントパネルに開閉可能に取

り付けられるグローブボックスを対象とするもので、そのボックス本体はインストールメントパネルの空所に対して回動可能に軸支されることを前提とする。

【 0 0 1 5 】

そして、本実施の形態にあつては、上記グローブボックス本体の意匠面におけるアウターパネルとインナーパネル間に移動可能に保持される左右一対のラッチに関しては、図 1・図 2 に示す如く、一方のラッチ 1 A の後端部側を上方向に湾曲させ、他方のラッチ 1 B の後端部側を下方向に湾曲させて、上下方向から連動可能に重合させる構成となす一方、各ラッチ 1 A・1 B の後端面に後述する孔部 3 内に挿通される抜け止め爪 2 a 付の軸部 2 を一体に突設すると共に、湾曲形状の付け根に上記各軸部 2 を相互に挿通する孔部 3 を設けて、該各孔部 3 に相手方の軸部 2 を互いに逆方向から挿通することにより、この部分において、枠組構造を構築して、捻じりモーメント等による変形に耐え得る構成となっている。

【 0 0 1 6 】

尚、後述する操作ハンドル 1 0 A・1 0 B・1 0 C・1 0 D から一方のラッチ 1 A に伝達された力により、後述するリンクレバー 5 が回転して、他方のラッチ 1 B に力が伝達されてグローブボックス本体が開放状態となる訳であるが、ラッチ 1 A・1 B とリンクレバー 5 は、後述する突起 4 a と端孔 5 a の緩い嵌合によって連結され、リンクレバー 5 と回転支点である支柱（図示せず）との係合にも隙間があるので、操作ハンドル 1 0 A・1 0 B・1 0 C・1 0 D からラッチ 1 B に伝達される開放力がリンクレバー 5 に伝達される際に、リンクレバー 5 が捻じられ、その反力や反動で、ラッチ 1 B に捻じり力や捻じりモーメントが作用する恐れがある。しかし、本実施の形態にあつては、リンクレバー 5 を圍繞するように、ラッチ 1 A の湾曲部分とラッチ 1 B の湾曲部分とを夫々の軸部 2 で連結して枠組構造となしているので、断面二次モーメントの向上が図れるため、リンクレバー 5 近傍にラッチ 1 A・1 B の摺動支持部材がなくとも、捻じり力や捻じりモーメントに十分対抗できることとなる。

【 0 0 1 7 】

又、ラッチ 1 A・1 B がインストールメントパネル側のロック孔に係入され、夫々の軸部 2 の抜け止め爪 2 a の端面が対応する孔部 3 の端面に衝突することによ

り、ロック孔に対する係入量が制限されて、ラッチ 1 A・1 B の移動が停止して、グローブボックス本体がインストルメントパネルに対して閉塞状態となる。そこで、本実施の形態では、孔部 3 に高粘度のグリスを注入して、軸部 2 と孔部 3 の間に制動力を発揮させると共に、抜け止め爪 2 a と孔部 3 の間にも高粘度のグリスを塗布することにより、衝突時の衝撃を和らげて打音の発生を抑制している。尚、本発明は、これに限定されるものではなく、抜け止め爪 2 a と孔部 3 の間に O リングを装着して、衝突時の衝撃を和らげて打音の発生を抑制したり、或いは、軸部 2 に O リングを嵌装すると共に、孔部 3 に内部と外気とを結ぶ微細な断面積をもった空気排出孔を穿設して、簡易なエアダンパーを構成することにより、打音の発生を抑制することも可能である。

【 0 0 1 8 】

これに加えて、左右の各ラッチ 1 A・1 B は、各自の湾曲形状の中間部を切欠して、該切欠域に突起 4 a を有する弾性片 4 を一体に設けて、該各弾性片 4 の突起 4 a をリンクレバー 5 の両端部に形成された凹部たる端孔 5 a に嵌合することにより、左右の各ラッチ 1 A・1 B を連動可能に連結すると共に、他方のラッチ 1 B の軸部 2 に左右の各ラッチ 1 A・1 B の先端部をインストルメントパネル側に形成されているロック孔方向に付勢する付勢ばね手段たる圧縮コイルばね 6 を装着する構成となっている。尚、上記リンクレバー 5 は、その中央孔 5 b を介してアウターパネル側に設けられる支柱（図示せず）に回転可能に軸支されるものであるが、図 3 に示す如く、リンクレバー 5 の肉厚がラッチ 1 A・1 B の肉厚よりも薄くなるように設定して、ラッチ 1 A・1 B 全体を薄くすることにより、上下方向の重合状態と相俟って、サイドロック装置自体を薄型化できるので、グローブボックスの有効に利用できる空間を従来品と比べて広くとれる。

【 0 0 1 9 】

又、左右の各ラッチ 1 A・1 B のアウターパネルと対面する直線状の側面に対しては、特に、図 1 に示す如く、盲孔状の第一係合孔部 7 と貫通孔状の第二係合孔部 8 を対の関係をもって所定の間隔を置いて複数設けると共に、インナーパネルと対面する直線状の側面先端寄りに対しては、図 2 に示す如く、後述する一方のラッチ 1 A を移動可能に保持する保持部材 1 1 A・1 1 B・1 1 C・1 1 D を

仮止めする弾性爪 9 を形成して、ラッチ 1 A・1 B と保持部材とを仮組み付け状態で納品することにより、組立作業の効率が向上できる構成となっている。尚、上記第一係合孔部 7 に対しては、ラッチ 1 A・1 B の移動軸線方向と直交する当接面 7 a を形成し、第二係合孔部 8 に対しては、ラッチ 1 A・1 B の移動軸線方向と傾斜する当接面 8 a を夫々形成するものとする。又、図 2 において、各ラッチ 1 A・1 B の側面に見える孔は、上記した貫通孔状の第二係合孔部 8 である。

【0020】

従って、斯かる構成の左右一对のラッチ 1 A・1 B に下から上へと縦方向に揺動する操作ハンドル 10 A を使用する場合には、図 4 に示す如く、まず、その保持部材 11 A 側に対しては、一方のラッチ 1 A の先端部を移動可能に保持する保持孔 12 と、操作ハンドル 10 A の軸受孔部 13 と嵌合する軸部 14 と、アウターパネルに固定される固定片 15 と、操作ハンドル 10 A のテーパ状の作動部 16 A を保持孔 12 内に差し込む差込孔 17 とを形成し、操作ハンドル 10 A に対しては、その両側に上記軸部 14 と嵌合する軸受孔部 13 と、既述した第二係合孔部 8 内に嵌入するテーパ状の作動部 16 A を形成して、上記軸受孔部 13 と軸部 14 を嵌合させることにより、保持部材 11 A で操作ハンドル 10 A を揺動可能に支持するものとする。

【0021】

そして、一方のラッチ 1 A の先端部を保持部材 11 A の保持孔 12 内に挿通しながら、保持部材 11 A を任意の第二係合孔部 8 側に対応して固定片 15 を介してアウターパネル側にネジ止めすれば、該保持部材 11 A に支持される操作ハンドル 10 A のテーパ状の作動部 16 A がその第二係合孔部 8 内に嵌入する。尚、この場合には、一方のラッチ 1 A の先端部のみが保持部材 11 A を介して保持されることとなるが、他方のラッチ 1 B の先端部はグローブボックス本体の側面に形成された通孔で直に保持されることとなるので、両者 1 A・1 B の作動に支障をきたす恐れがない。勿論、一方のラッチ 1 A の先端部も通孔でも保持されることは言うまでもない。

【0022】

そこで、後は、操作ハンドル 10 A を揺動操作することで、図 5 に示す如く、

当該操作ハンドル 1 0 A のテーパー状の作動部 1 6 A が対応する第二係合孔部 8 の傾斜する当接面 8 a に沿って摺動して、一方のラッチ 1 A の先端部を圧縮コイルばね 6 の付勢ばね圧に抗してインストルメントパネルのロック孔から後退させると同時に、他方のラッチ 1 B の先端部もリンクレバー 5 の作用でロック孔から後退させるので、これにより、グローブボックスを開放方向に移動させることが可能となる。尚、この場合には、上から下へと縦方向に揺動する操作ハンドルを使用する場合にも、同様な原理の下で、使用に供せられることとなる。又、操作ハンドル 1 0 A の揺動操作を解くと、圧縮コイルばね 6 の付勢力で、操作ハンドル 1 0 A は元の閉状態に自動的に復帰する。

【 0 0 2 3 】

次に、左右一对のラッチ 1 A ・ 1 B に左から右へと横方向に揺動する操作ハンドル 1 0 B を使用する場合には、図 6 に示す如く、その保持部材 1 1 B に対しては、上記した保持孔 1 2 と軸部 1 4 と固定片 1 5 に加えて、操作ハンドル 1 0 B の直線状の作動部 1 6 B を保持孔 1 2 内に差し込む差込孔 1 7 とを形成し、操作ハンドル 1 0 B に対しては、その一端側に軸受孔部 1 3 と直線状の作動部 1 6 B とを形成して、上記軸受孔部 1 3 と軸部 1 4 を嵌合させることにより、保持部材 1 1 B で操作ハンドル 1 0 B を揺動可能に支持するものとする。

【 0 0 2 4 】

そして、やはり、一方のラッチ 1 A の先端部を保持部材 1 1 B の保持孔 1 2 に挿通しながら、今度は、保持部材 1 1 B を任意の第一係合孔部 7 に対応して固定片 1 5 を介してアウターパネル側にネジ止めすれば、該保持部材 1 1 B に支持される操作ハンドル 1 0 B の直線状の作動部 1 6 B がその第一係合孔部 7 内に嵌入する。尚、この場合にも、一方のラッチ 1 A の先端部のみが保持部材 1 1 B を介して保持されることとなるが、他方のラッチ 1 B の先端部はグローブボックス本体の側面に形成された通孔で直に保持されることとなる。

【 0 0 2 5 】

そこで、後は、操作ハンドル 1 0 B を揺動操作することで、図 7 に示す如く、当該操作ハンドル 1 0 B の直線状の作動部 1 6 B が第一係合孔部 7 の直交する当接面 7 a に沿って摺動して、一方のラッチ 1 A の先端部を圧縮コイルばね 6 の付

勢ばね圧に抗してインストルメントパネルのロック孔から後退させると同時に、他方のラッチ 1 B の先端部もリンクレバー 5 の作用でロック孔から後退させるので、これにより、グローブボックスを開放方向に移動させることが可能となる。尚、この場合には、右から左へと横方向に揺動する操作ハンドルを使用する場合にも、同様な原理の下で、使用に供されることとなる。又、操作ハンドル 10 B の揺動操作を解くと、圧縮コイルばね 6 の付勢力で、操作ハンドル 10 B は元の閉状態に自動的に復帰する。

【0026】

更に、左右一对のラッチ 1 A・1 B にプッシュタイプの操作ハンドル 10 C を使用する場合には、図 8 に示す如く、その保持部材 11 C に対しては、上記した保持孔 12 と固定片 15 に加えて、操作ハンドル 10 C のテーパ状の作動部 16 C を保持孔 12 内に差し込む差込孔 17 と、操作ハンドル 10 C 側に設けられた係止脚 18 の移動距離と位置を規制するスリット 19 と、係止脚 18 の移動を案内する案内壁 19 a とを形成し、操作ハンドル 10 C に対しては、その中央部にテーパ状の作動部 16 C と、その周囲に 4 本の係止脚 18 とを形成して、上記係止脚 18 をスリット 19 内に係入させることにより、保持部材 11 C で操作ハンドル 10 C をラッチと直交する方向に押圧可能に支持するものとする。

【0027】

そして、当該 4 本の係止脚 18 の先端をスリット 19 内に係入させ、各係止脚 18 の内面を案内壁 19 a に摺接させる状態を得て、一方のラッチ 1 A の先端部を保持部材 11 C の保持孔 12 に挿通しながら、保持部材 11 C を任意の第二係合孔部 8 に対応して固定片 15 を介してアウターパネル側にネジ止めすれば、該保持部材 11 C に支持される操作ハンドル 10 C のテーパ状の作動部 16 C がその第二係合孔部 8 内に嵌入する。この場合にも、やはり、一方のラッチ 1 A の先端部のみが保持部材 11 C を介して保持されることとなるが、他方のラッチ 1 B の先端部はグローブボックス本体の側面に形成された通孔で直に保持されることとなる。

【0028】

そこで、後は、操作ハンドル 10 C を保持部材 11 C 方向に押圧することで、

図 9 に示す如く、当該操作ハンドル 1 0 C のテーパ状の作動部 1 6 C が第二係合孔部 8 の傾斜する当接面 8 a に沿って摺動して、一方のラッチ 1 A の先端部を圧縮コイルばね 6 の付勢ばね圧に抗してインストルメントパネルのロック孔から後退させると同時に、他方のラッチ 1 B の先端部もリンクレバー 5 の作用でロック孔から後退させるので、これにより、グローブボックスを開放方向に移動させることが可能となる。又、操作ハンドル 1 0 C の押圧操作を解くと、圧縮コイルばね 6 の付勢力で、操作ハンドル 1 0 C は元の閉状態に自動的に復帰することとなる。

【 0 0 2 9 】

又、左右一对のラッチ 1 A ・ 1 B にスライドタイプの操作ハンドル 1 0 D を使用する場合には、図 1 0 に示す如く、その保持部材 1 1 D に対しては、上記した保持孔 1 2 と固定片 1 5 に加えて、操作ハンドル 1 0 D の直線状の作動部 1 6 D を保持孔 1 2 内に差し込む差込孔 1 7 と、操作ハンドル 1 0 D 自体をスライド可能に支持する切欠溝付の支持孔 2 0 とを形成し、操作ハンドル 1 0 D に対しては、その一端側に直線状の作動部 1 6 D を形成して、上記支持孔 2 0 内に操作ハンドル 1 0 D を支持孔 2 0 の撓みを得て支持することにより、保持部材 1 1 D で操作ハンドル 1 0 D を横方向に押圧可能に支持するものとする。

【 0 0 3 0 】

そして、一方のラッチ 1 A の先端部を保持部材 1 1 D の保持孔 1 2 内に挿通しながら、保持部材 1 1 D を任意の第一係合孔部 7 に対応して固定片 1 5 を介してアウターパネル側にネジ止めすれば、該保持部材 1 1 D に支持される操作ハンドル 1 0 D の直線状の作動部 1 6 D がその第一係合孔部 7 内に嵌入する。尚、この場合にも、一方のラッチ 1 A の先端部のみが保持部材 1 1 D を介して保持されることとなるが、他方のラッチ 1 B の先端部はグローブボックス本体の側面に形成された通孔で直に保持されることとなる。

【 0 0 3 1 】

そこで、後は、操作ハンドル 1 0 D を保持部材 1 1 D に沿って押圧することで、図 1 1 に示す如く、当該操作ハンドル 1 0 D の直線状の作動部 1 6 D が第一係合孔部 7 の直交する当接面 7 a に沿って摺動して、一方のラッチ 1 A の先端部を

圧縮コイルばね 6 の付勢ばね圧に抗してインストルメントパネルのロック孔から後退させると同時に、他方のラッチ 1 B の先端部もリンクレバー 5 の作用でロック孔から後退させるので、これにより、グローブボックスを開放方向に移動させることが可能となる。又、操作ハンドル 10 D の揺動操作を解くと、圧縮コイルばね 6 の付勢力で、操作ハンドル 10 D は元の閉状態に自動的に復帰する。

【0032】

尚、上記の説明は、一方のラッチ 1 A 側で保持部材 11 A・11 B・11 C・11 D を介して操作ハンドル 10 A・10 B・10 C・10 D を任意の設置位置で支持したものであるが、本発明はこれに限定されるものではなく、他方のラッチ 1 B 側も一方のラッチ 1 A と同一構造が付与されているので、他方のラッチ 1 B 側で保持部材 11 A・11 B・11 C・11 D を介して操作ハンドル 10 A・10 B・10 C・10 D を任意の設置位置に支持することも可能である。いずれにしても、操作ハンドル 10 A・10 B・10 C・10 D を揺動可能或いは押圧可能に支持する保持部材 11 A・11 B・11 C・11 D の固定位置を選択するだけで、操作ハンドル 10 A・10 B・10 C・10 D を任意の設置位置に支持できることとなる。

【0033】

又、本実施の形態にあっては、操作ハンドル 10 A・10 B・10 C・10 D とラッチ 1 A・1 B が、夫々、アウターパネルの表側と裏側に存在するため、操作ハンドル 10 A・10 B・10 C・10 D の各作動部 16 A・16 B・16 C・16 D は、アウターパネル側に設けられた開口（図示せず）を通して係合孔部 7・8 の内部に嵌入することとなる。しかし、操作ハンドル 10 A・10 B・10 C・10 D の設置位置を変更する際には、同時に、上記したアウターパネルの開口の位置も変更しなければならないが、サイドロック装置自体を設計変更する必要はない。

【0034】

更に、軸支されるリンクレバー 5 や、操作ハンドル 10 A・10 B・10 C・10 D を揺動或いは押圧可能に支持すると共にラッチ 1 A・1 B を摺動可能に保持する保持部材 11 A・11 B・11 C・11 D は、全て、アウターパネルの裏

側に取り付けられるので、操作ハンドル 10A・10B・10C・10D の設置位置を変更する際には、開口位置の変更と相俟って、リンクレバー 5 を軸支する支柱（図示せず）や保持部材 11A・11B・11C・11D の固定片 15 の取付座も同時に変更するだけで良く、設計変更作業や生産金型等の製作も必要最低限の労力・費用で行える。

【0035】

以上説明してきたように、保持部材 11A・11B・11C・11D は、当接面 7a・8a の両側でラッチ 1A・1B を摺動可能に保持しているので、操作ハンドル 10A・10B・10C・10D からラッチ 1A・1B に力を伝達する際には、力の方向が変化しても、開放力を円滑にラッチ 1A・1B 側に伝達できる。

【0036】

従って、本実施の形態にあつては、共通する左右一对のラッチ 1A・1B を使用することで、右ハンドル仕様車や左ハンドル仕様車に対しても、装置全体を変更しなくとも、操作ハンドル 10A・10B・10C・10D の設置位置を自由に変更することができると共に、操作方向も、上下揺動タイプと左右揺動タイプ方式に自由に変更でき、且つ、操作方式も、揺動タイプとプッシュタイプとスライドタイプに自由に変更できるので、その都度、サイドロック装置を設計変更する必要もなくなる。

【0037】

又、上記した実施の形態にあつては、操作ハンドル 10A・10B・10C・10D の各作動部 16A・16B・16C・16D を当接する当接面をラッチ 1A・1B の内部側に形成したものであるが、これも限定されるものではなく、例えば、図 12 に示す如く、ラッチ 1A・1B の側面から突出する当接面 8a を形成して、保持部材 11A・11B・11C・11D 側に突出当接面 8a の移動を許容する切欠 21 を設けることも可能であるが、実施の形態のように構成すれば、ラッチ 1A・1B 自体の薄型化が可能となる利点がある。

【0038】

尚、いずれの場合にあつても、具体的には図示しないが、グローブボックス本体の閉塞状態にあつては、左右の各ラッチ 1A・1B の先端部がインストルメン

トパネル側の対応する左右のロック孔に係入して、グローブボックスをその閉塞位置にロックすることは言うまでもない。

【 0 0 3 9 】

【発明の効果】

以上の如く、本発明は、上記構成の採用により、少なくとも、一方のラッチが操作ハンドルの作動部と当接する当接面を二つ以上有する関係で、操作ハンドルの位置をラッチに沿って自由に変更して、その作動部に対応する当接面に当接させながら、操作ハンドルを操作すれば、左右一对のラッチの先端部を支持体側のロック孔から付勢ばね手段に抗して後退させることが可能となるので、これにより、操作ハンドルのいくつもの操作方向と操作方式が提供できる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の実施の形態に係るサイドロック装置に供される左右一对のラッチをアウターパネル側から示す分解斜視図である。

【図 2】

同左右一对のラッチをインナーパネル側から示す分解斜視図である。

【図 3】

リンクレバーの端孔が弾性片の突起と嵌合した状態を示す要部断面図である。

【図 4】

上下揺動タイプの操作ハンドルとその保持部材を示す分解斜視図である。

【図 5】

上下揺動タイプの操作ハンドルでラッチを後退させた状態を示す要部断面図である。

【図 6】

左右揺動タイプの操作ハンドルとその保持部材を示す分解斜視図である。

【図 7】

左右揺動タイプの操作ハンドルでラッチを後退させた状態を示す要部断面図である。

【図 8】

プッシュタイプの操作ハンドルとその保持部材を示す分解斜視図である。

【図 9】

プッシュタイプの操作ハンドルでラッチを後退させた状態を示す要部断面図である。

【図 1 0】

スライドタイプの操作ハンドルとその保持部材を示す分解斜視図である。

【図 1 1】

スライドタイプの操作ハンドルでラッチを後退させた状態を示す要部断面図である。

【図 1 2】

操作ハンドルの作動部を当接する当接面と保持部材の他例を示す分解斜視図である。

【符号の説明】

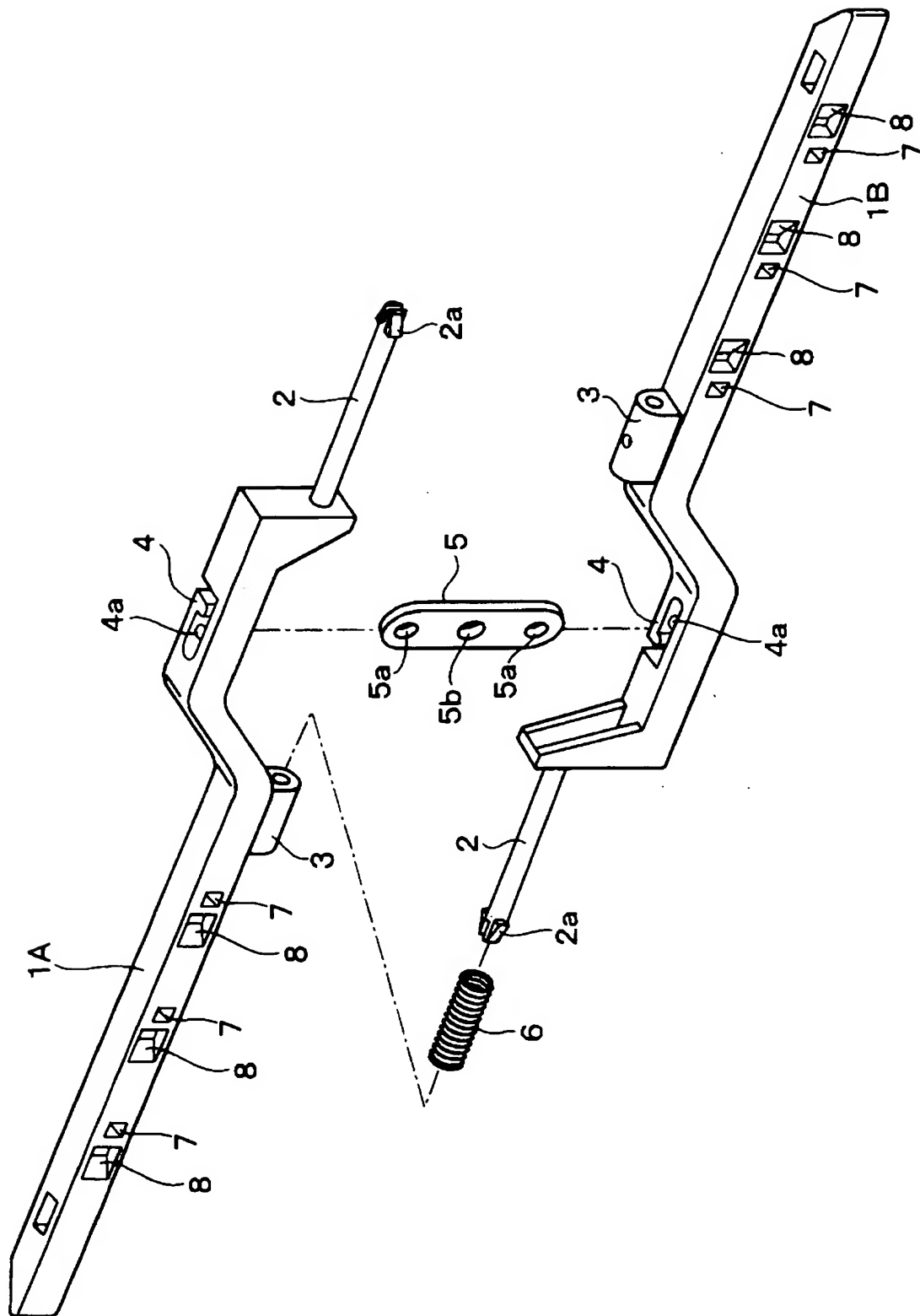
- 1 A 一方のラッチ
- 1 B 他方のラッチ
- 2 軸部
- 2 a 抜け止め爪
- 3 孔部
- 4 弾性片
- 4 a 突起
- 5 リンクレバー
- 5 a 端孔（凹部）
- 5 b 中央孔
- 6 圧縮コイルばね（付勢ばね手段）
- 7 第一係合孔部
- 7 a 直交する当接面
- 8 第二係合孔部
- 8 a 傾斜する当接面
- 9 弾性爪

- 1 0 A 上下揺動タイプの操作ハンドル
- 1 0 B 左右揺動タイプの操作ハンドル
- 1 0 C プッシュタイプの操作ハンドル
- 1 0 D スライドタイプの操作ハンドル
- 1 1 A 上下揺動タイプの保持部材
- 1 1 B 左右揺動タイプの保持部材
- 1 1 C プッシュタイプの保持部材
- 1 1 D スライドタイプの保持部材
- 1 2 挿通孔
- 1 3 軸受孔部
- 1 4 軸部
- 1 5 固定片
- 1 6 A テーパー状の作動部
- 1 6 B 直線状の作動部
- 1 6 C テーパー状の作動部
- 1 6 D 直線状の作動部
- 1 7 差込孔
- 1 8 係止脚
- 1 9 スリット
- 2 0 支持孔
- 2 1 切欠

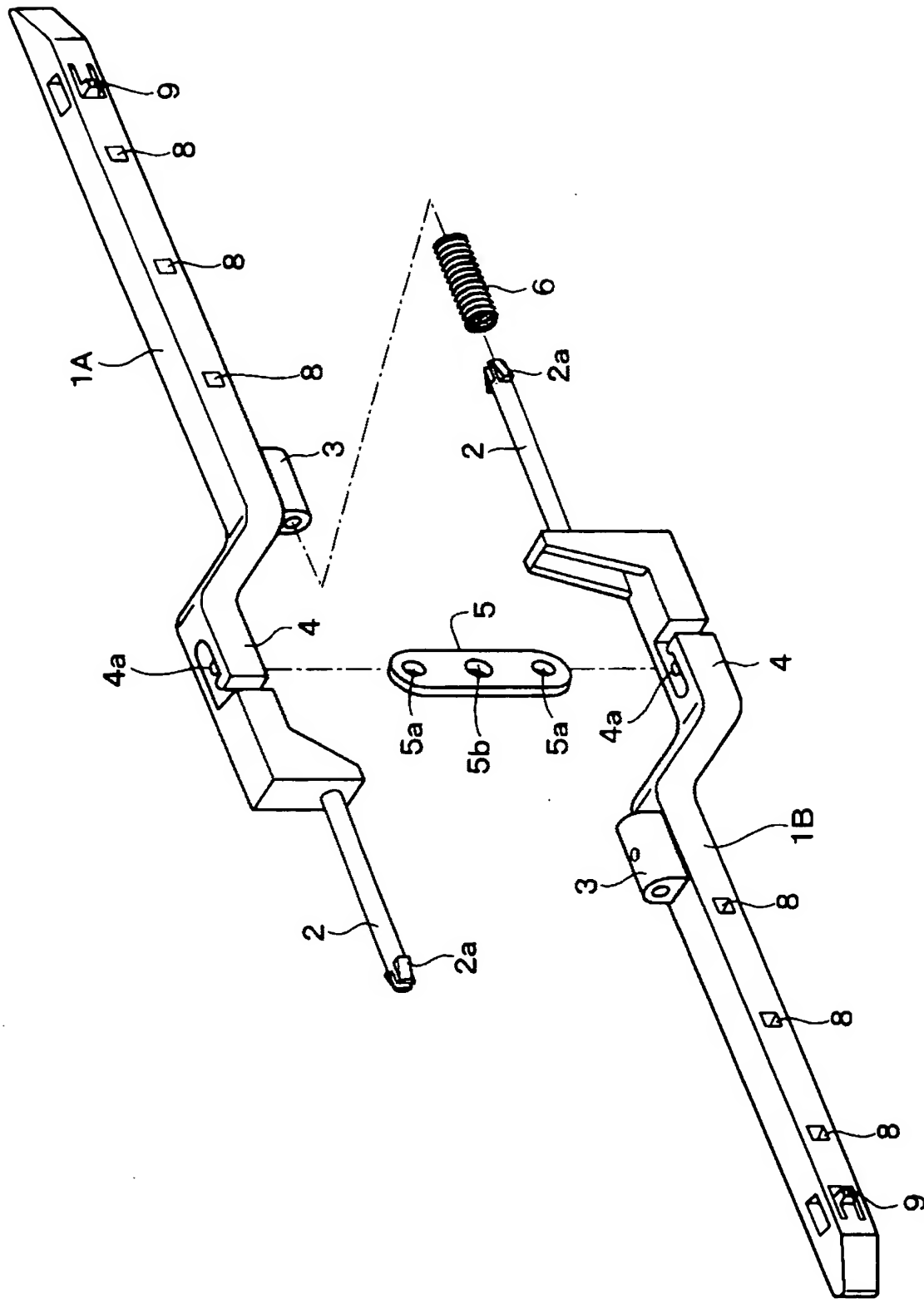
【書類名】

図面

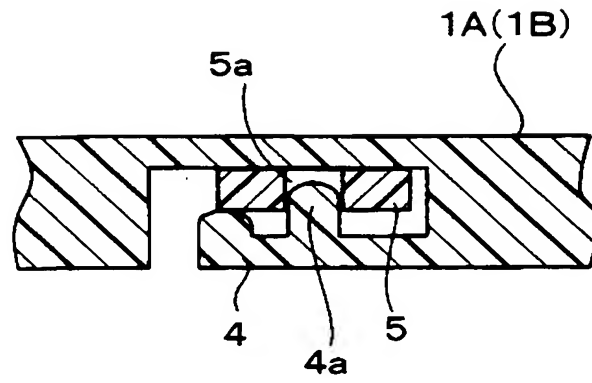
【図 1】



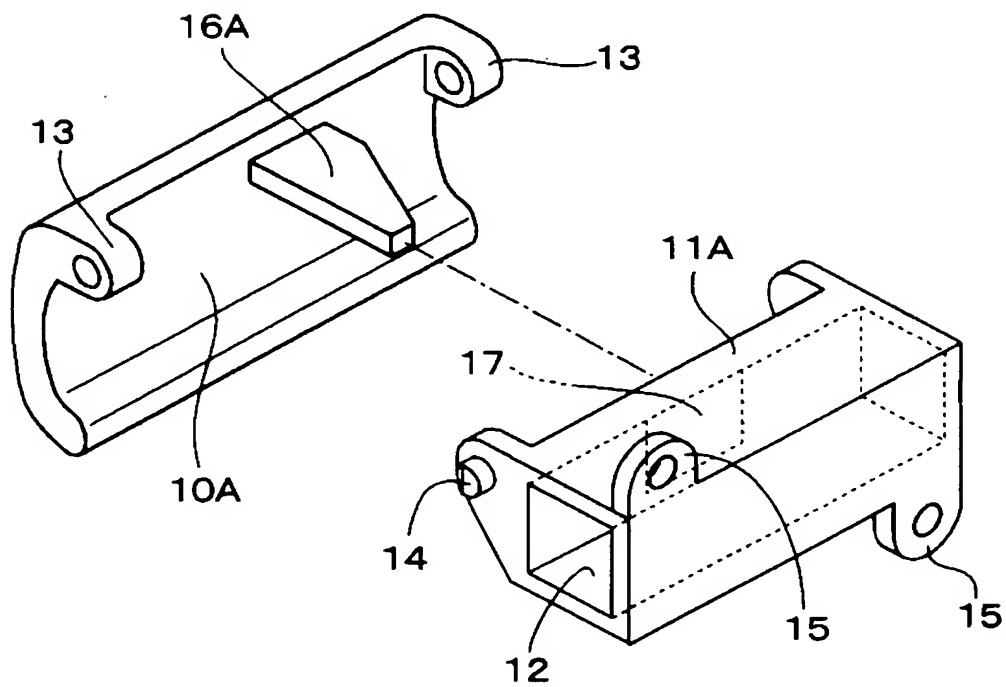
【図 2】



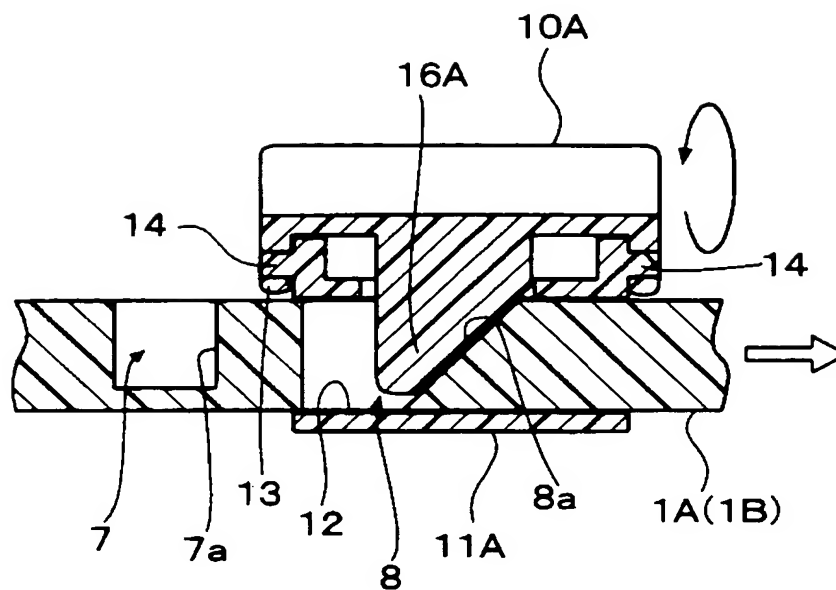
【図 3】



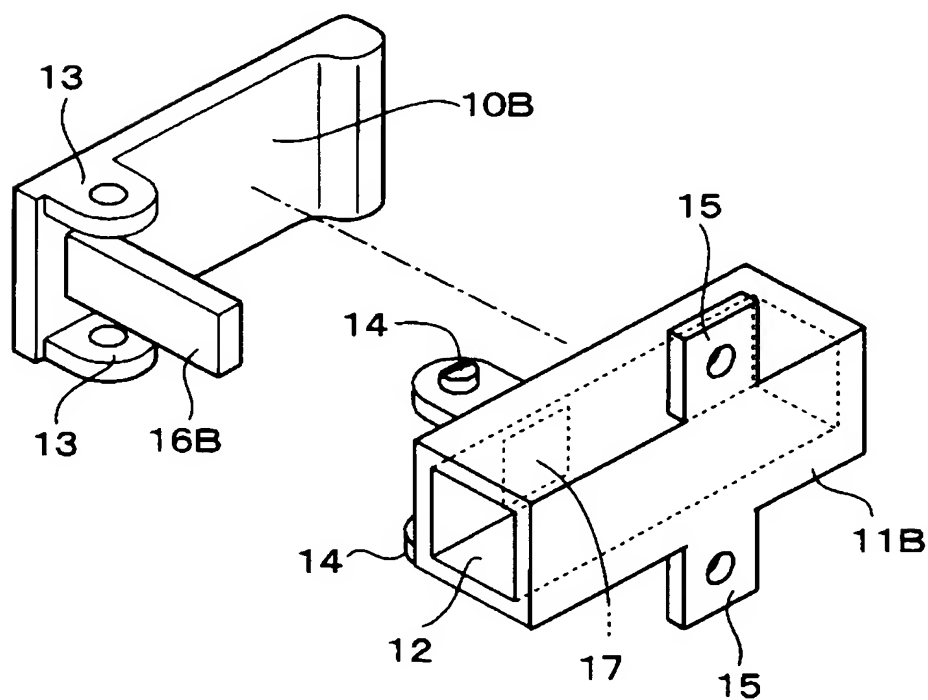
【図 4】



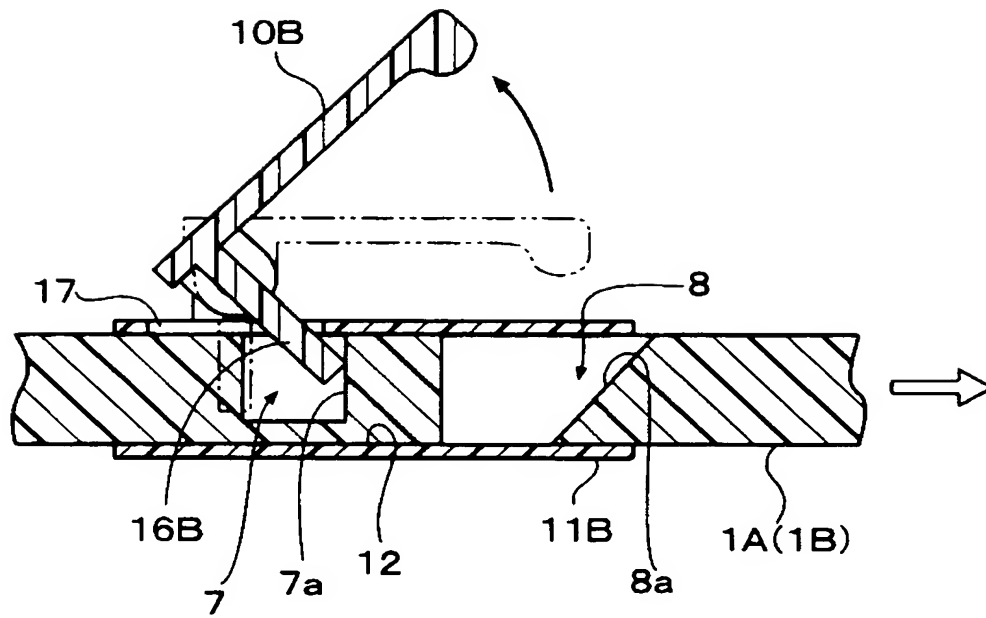
【図5】



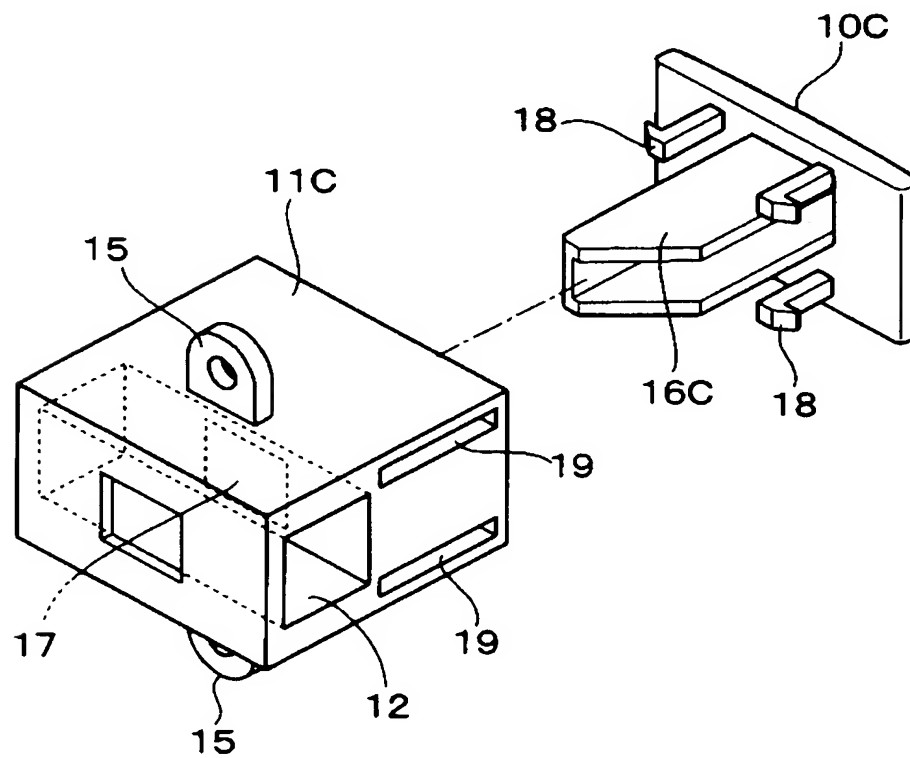
【図6】



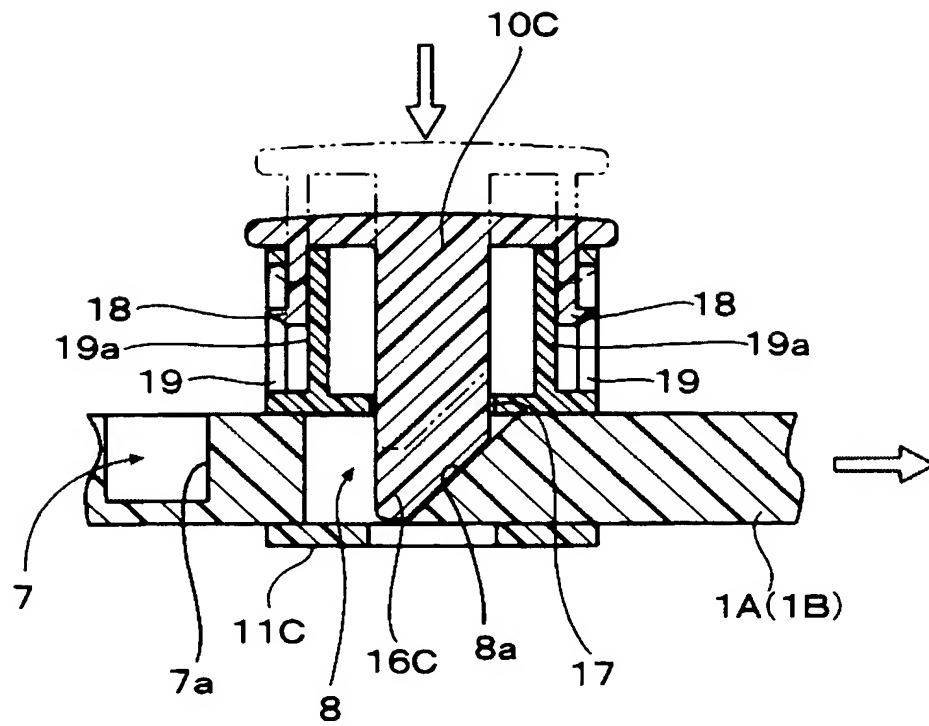
【図 7】



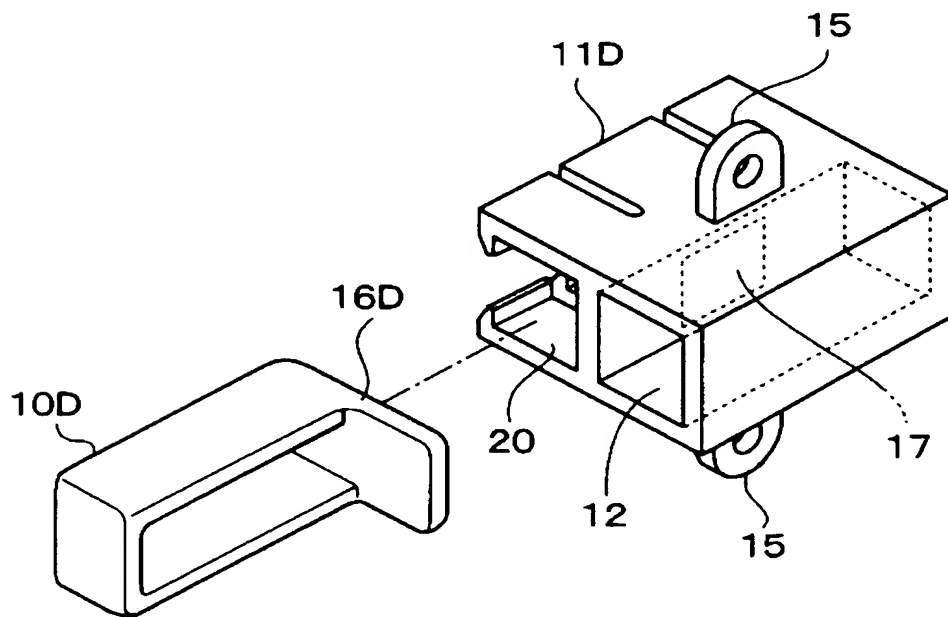
【図 8】



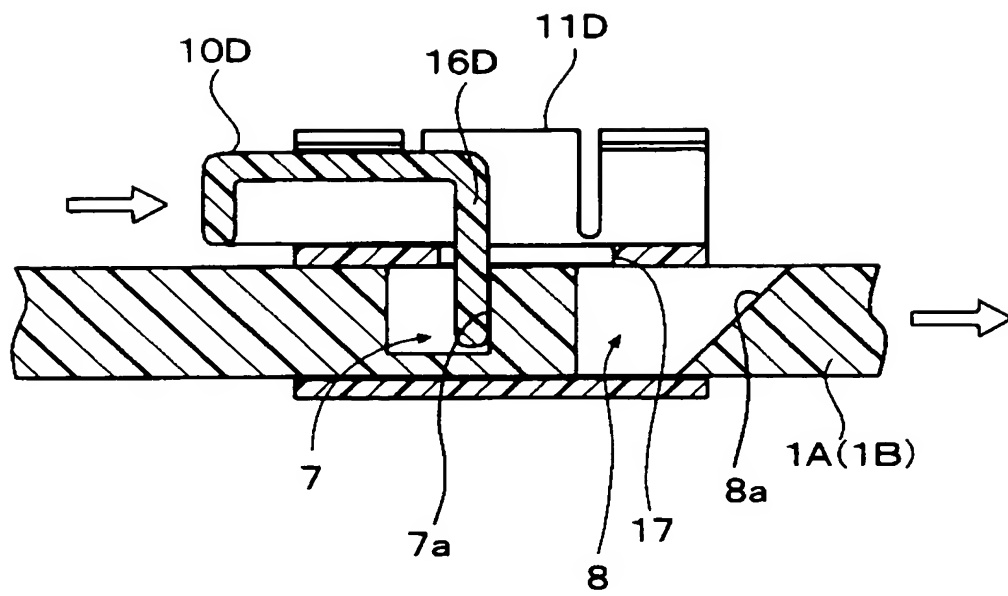
【図 9】



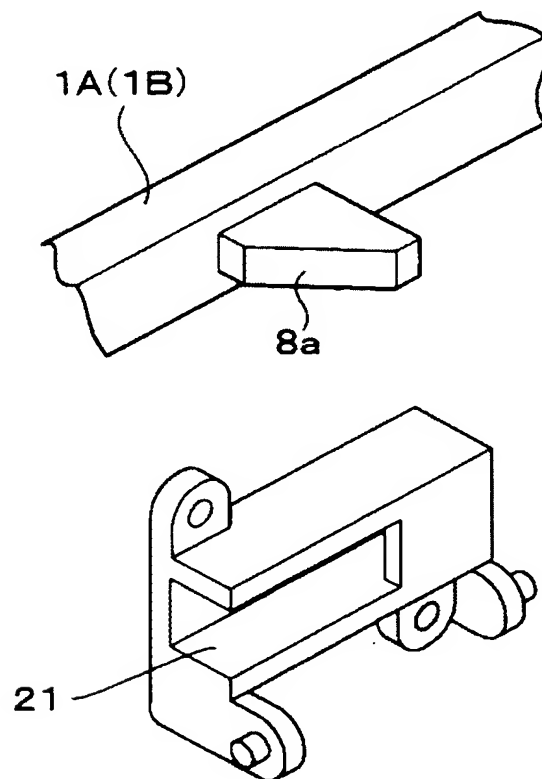
【図 10】



【図 11】



【図 12】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 自在性に富んだ収納体のサイドロック装置の提供。

【解決手段】 支持体に収納体を開閉可能に取り付け、収納体側に左右一对のラッチを移動可能に保持すると共に、該左右の各ラッチを付勢ばね手段のばね圧で支持体側に形成されたロック孔方向に付勢して、操作ハンドルの操作で、上記左右の各ラッチの先端部を支持体側のロック孔から付勢ばね手段に抗して後退させる収納体のサイドロック装置において、上記左右一对のラッチを収納体側に回転可能に軸支されたリンクレバーを介して連動させる一方、操作ハンドルにラッチ 1 A と当接する作動部 1 6 A を設けて、少なくとも、一方のラッチ 1 A に当該操作ハンドルの作動部 1 6 A と当接する当接面 7 a ・ 8 a を二つ以上設けることにより、操作ハンドルのいくつもの操作方向と操作方式が提供できる。

【選択図】 図 5

特願 2 0 0 3 - 1 1 2 4 8 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 1 2 4 0 9 6]

1. 変更年月日 1 9 9 5 年 1 0 月 1 9 日

[変更理由] 名称変更

住 所 神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町 5 1 番地

氏 名 株式会社パイオラックス